

令和7年度秋田県放課後児童支援員等認定資格研修 研修レポート抜粋

(誤字脱字等については校正しているため、原文と異なる場合があります。)

＜県南会場＞

科目 ⑦特に配慮を必要とする子どもの理解

- ◆ あってはならない児童虐待について、私たちは常に子どもの様子を伺い配慮をしなければならないと気が引き締まった。身体的、性的、心理的虐待、ネグレクトは全国的にも増加傾向にある中で、それに気づき運営主体や職員との相談、情報を共有し放課後児童クラブ内の体制を整備しなければならない。自分の経験や価値観ではなく、相手の人生に寄り添い、聴く、看る、見守るなどちょっとした手助けができるように努めていきたい。
- ◆ 本講座では、子どもの貧困について、その対策に関する法制度や貧困対策に取り組む社会的意義、そして、児童虐待について学んだ。子どもたちと接する際にあざや傷、行動、服装、におい、食事の様子に注意を払い気付きがあった場合には、運営主体や他の職員などに相談することが重要だということを理解することができた。「未来をつくる力である子どもを社会全体で育んでいくことが重要」という教えが心に残った。
- ◆ 子どもの一人ひとりの背景を理解し、行動の裏にある思いやSOSに気付くことの大切さを学びました。身体的な虐待は目に見えて気付けることもあるが、心理的な虐待は気付きにくく、無意識のうちに自分もしてしまう可能性があることを感じました。何気ない言葉や態度が子どもを傷つけることがないよう、日々の関わりを丁寧に見つめ直していました。
- ◆ 児童虐待のとらえ方では、子ども視点で有害であれば虐待になるので、子どもの人権を尊重し心身の健全な発達に有害な影響を及ぼす言動をしてはならないということを学びました。また、子どもの9人に1人が貧困という状況に驚きました。貧困対策の様々な支援があるにも関わらず、貧困状態が見えづらいこと、隠そうとするという課題もあることも理解しました。この支援が困っている人に届くようになればいいと思いました。
- ◆ 子どもへの様々な虐待が多く存在することに少し驚きました。また、貧困についても詳しく知ることができました。子どもの虐待については、あざや傷の確認で気付くこともできるが、貧困については周りからは分かりづらい部分もあり確認が遅れてしまうことに納得するところもあった。自分たちができる最も重要なことは、一人ひとりを見守りること、子どもの些細な変化に気付くことだと改めて感じた。